

# 民俗楽器作ったよ

## 親子が芸術教室楽しむ

八戸

八戸市新美術館建設推進室と同市の現代芸術教室

「アートイズ」は17日、芸術の楽しさを広く知ってもらうため、出張教室を同市の「はちのへまちなかアートラボC.O.部屋」で開いた。4歳から小学4年生の子どもと保護者20人余りが参加、アフリカが起源とされる民俗楽器・レインステティック作りに取り組んだ。

市民が芸術活動に参加する空間を目指す新美術館が同市に2020年度末オープンするのを前に、芸術や創作に親しむ機会をつくることと同推進室が企画。八戸学院大学短期大学の佐貫巧講師が代表を務め、有志らがさまざまな芸術教室を市内で展開しているアートイズと協力して行った。

レインステティックは竹などの筒の内側に竹串をらせん状に差し込み、小石をひとすくい入れた楽器。筒を傾けると石が竹串の間を転

がり、さらさらと雨のような音を奏でる。佐貫代表によると、雨を呼ぶ儀式などに用いられた楽器という。今回は同市の三菱製紙が提供したロールペーパーの芯を筒に使用。子どもたちは思い思いにイラストを描いた布を筒に巻き付けるなどしてオリジナルのレインステティックを作り上げた。

長者小4年の佐藤来さんは「傾け方によっていろいろな音が出るのが楽しい」と出来栄にご満悦。佐貫代表は「雨音のように日常生活であまり意識しないことでも、芸術的に考えることでいろいろなとらえ方ができる。そんな力を養ってほしい」と話していた。

(若松清巳)

子どもたちがレインステティックづくりに挑戦した「アートイズ」出張教室